

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和7年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.1-	
重点項目	学習活動 【その1】
重点課題	学習習慣の確立と単位修得
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒の家庭環境や生育歴などが多様で学力・体力・生活力の格差が大きい。</li><li>発達障害等の適応性や健康面の問題など様々な経緯により入学・転入編入する生徒が大多数である。生活習慣の確立と日々の学習活動が単位修得率に大きく関連している。</li><li>専攻科では生徒の知識・関心の度合いに差が大きく、一斉指導が難しい。実習において作業工程をしっかりと理解できない生徒が増加している。</li><li>昨年の単位修得率は、定時制・昼間単位制が84.9%、夜間単位制85.8%、通信制が58%（前期）、専攻科では94%（学年末）となっている。</li></ul>
達成目標	単位修得率 【定時制】前期末集計 80%以上 *昼間単位制・夜間単位制共通 【通信制】前期末集計 60%以上 【専攻科】学年末集計 100%
方 策	<b>【定時制】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>出席率を向上させるため、健康面や学習状況に応じて教員間の連携や保護者への連絡など早期対策を行う。</li><li>年次担任を中心に生活指導や進路相談を充実させる。</li><li>不登校傾向など問題を抱える生徒に対してカウンセラーなど専門家や外部機関との連携を強化し、単位修得や進路目標を意識づける。</li><li>多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現する方法について検討する。</li></ul> <b>【通信制】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>スクーリングや個別面談を通して生徒の学習状況を把握し、適切な助言や添削を行い自学自習の意欲向上と定着を図る。</li><li>レポート提出前の個別指導や科目担当者との面談をより充実させ、学習達成度に応じた学習指導をきめ細かく行う。</li><li>学習活動が円滑に進められるようにガイダンスやホームルーム活動を通じて、気軽に相談できる環境を整え、目標に応じた学習に取り組めるよう支援する。</li></ul> <b>【専攻科】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の家庭環境や生活状況について調査した上で個々の学習目標と特性を把握し、効果的な学習指導を行う。</li><li>実習での予習と復習の時間を設定し、学習効果と実技の定着度向上を図る。</li></ul>
達成度	<b>【定時制】</b> [昼間]単位修得率 (88.7%) (前期) [夜間]単位修得率 (83.7%) (前期) <b>【通信制】</b> 単位修得率 (62.1%) (前期) <b>【専攻科】</b> 単位修得率 (98%) (学年末)
具体的な取組状況	<b>【定時制】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>長期欠席等の様々な問題を抱える生徒に対し、早期に状況等を把握しスクールカウンセラー等の専門家や外部機関と連携し対応を図った。</li><li>中間考査の成績をもとに成績会議を行い、成績不審者への早期の対応を心掛けた。(夜間)</li><li>実務代替による単位認定を見直し普通科での単位取得者が増加した。(夜間)</li></ul> <b>【通信制】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>レポート提出前の個別指導、Google Classroomへの学習ポイント掲載、レポート作成時のNHK高校講座等の紹介を通して、生徒の学習意欲を喚起した。</li><li>転編入生徒や復活生が円滑に適応できるよう、学期ごとのガイダンスを実施した。</li><li>学習リズム定着のため、生徒が無理のない範囲での単位修得を目指す指導を実施し、1単位以上修得者の割合は73.9%と高い数字を得た。</li></ul> <b>【専攻科】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の出席や学習状況について教員間の連携を強化し、気がかりな生徒には、保護者への連絡や個別面談を早期に行った。</li><li>実習において自学自習の時間を設定し、学習効果の向上と技能の定着を図った。</li></ul>
評 価	B   ・ほぼ目標値を達成することができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、教員によるチーム支援体制を充実していくことが大切である。</li><li>学力の高い生徒に対する手当をより充実させてほしい。</li></ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"><li>単位修得率向上のため、入学前の面談、在校生への受講ガイダンスを充実したい。</li><li>多様な方法での単位習得の方法を検討したい。</li></ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学習活動【その2】
重点課題	読書習慣の定着
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度後期アンケートより、図書館を2回以上利用した生徒の割合は【昼間】38.9%、【夜間】50%、【通信】19.4%。また、図書館利用が増えたと答えた生徒の割合は【昼間】29.1%、【夜間】33.3%、【通信】50%であった。</li> <li>・すべての課程において図書館を利用しない理由の過半数は「本に興味がない」であった。</li> <li>・昨年度前期アンケート結果より、図書館開館カレンダーや利用の仕方についての掲示物等の作成などの取り組みを行った。取り組みの結果、図書館の利用を行うことができた生徒がいた一方、取り組みを知らない生徒も多くいた。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回以上図書館を利用する生徒数の増加</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館オリエンテーションの実施内容や授業での図書館利用の利点について教員にPRしたり、各授業のニーズを調査したりし、図書館の授業での活用を促す。</li> <li>・読書感想文・感想画どちらかの方法で感想をまとめたものを掲示するなどし、相互に認め合う一体感と、読書への充実感をもたせる。</li> <li>・年2回、生徒に図書館の利用状況に関するアンケートを実施する。利用状況に合わせて生徒目線にたった図書のレイアウトを工夫したり、新聞・雑誌の購入を検討したりするなど、親しみやすい図書館づくりをめざす。</li> <li>・話題性のあるタイムリーな本や雑誌の紹介等の取り組みをして、生徒の興味関心を喚起する。</li> <li>・図書委員会と連携し、生徒の負担軽減をしつつ、全ての課程の生徒が参加できる図書館行事を行う。</li> <li>・図書の選定においては、各教科担当者等の意見を尊重しながら、広い視野に立って年間を通して計画的に購入する。</li> </ul>
達 成 度	2回以上図書館を利用した生徒の数 【昼間】42.3%【夜間】33.3%【通信】13.9%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特活と連携し、HR計画に図書館オリエンテーションを取り入れて実施してもらった。</li> <li>・図書館行事として校内読書感想文・感想画コンクールを行った。昨年に続き、読書感想画の応募が増加した。特活と連携し、学園祭前の表彰伝達で入賞作品の発表および表彰、学園祭で受賞作品の掲示を行った。</li> <li>・各教科担当者に調査し、授業に関連する特設コーナーを毎月設置した。</li> <li>・図書館行事として全課程教員・生徒対象に教養講座を開催した。</li> <li>・図書委員会では、生徒の負担軽減をしつつ、自分の役割を果たすことができるという実感を得られるように係活動の設定を行った。学園祭では、アンケートを基に「一行小説」を復活させた。</li> <li>・生徒用図書は、司書の計画に加え、全教員に希望調査をしたり、生徒からアンケートを取ったりし、分掌での選書部会を経て購入した。また予算に更新費を新設し、計画的な図書の更新に努めた。</li> </ul>
評 価	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回以上図書館を利用したと答えた生徒数の割合は昨年度後期のアンケートから昼間で微増、夜間・通信で減であった。</li> <li>・図書館を余暇の時間を過ごす場や学習の場として利用する生徒が増えた。</li> <li>・図書館の取り組みや図書館を利用したHR活動・学習の推進について周知されるようにPR方法を工夫していくことが課題である。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館が安心できる場所ということを土台にして、図書館を将来役に立つ情報があるといった進路情報の拠点にするなど、図書館に足を向くような仕掛けづくりをするとよい。</li> <li>・グループごとに読書の感想や疑問点を話し合う「月いち読書会」を開催してはどうか。感想文を書くことが苦手な人、話すことが苦手な人にもおすすめである。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が不安なく図書館を利用できるようにすることで、生徒が本に触れる機会を増やせるように、HRでの図書館オリエンテーションの実施の声掛けを継続する。</li> <li>・図書を利用したHR活動・学習が推進できるよう教科・年次・特活・進路と連携を図る。</li> <li>・生徒が気軽に本や図書館に興味を持つことができるように、イベントの企画や図書館を利用した学習活動に関するPRを行う。</li> <li>・蔵書点検時に廃棄基準に該当する図書の把握を的確に行い、複数年単位で計画的に更新することで、より多くの生徒が図書館を使用できるようにする。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活 【その1】	
重点課題	生徒の自律性・主体性の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校に在籍する生徒は、小・中学校で学校に通うことや教室で過ごすことに困難を感じてきた生徒が多い。そのため、集団に入ることに消極的だったり、集団として求められる行動ができなかったりするなど、集団の中での生活・行動が苦手な生徒も多い。また、規範意識が十分に育っていない生徒も見受けられる。</li> <li>自己肯定感が低い生徒が多く、周囲の言動に対し敏感に反応する傾向が強い。そのことが問題行動を引き起こすことにつながることもある。</li> <li>高校入学を機に、自分の目標を定め、学び直そうと地道に努力している生徒も多い。そのような生徒たちを後押ししたり、支えたりする雰囲気を作り出すことが求められる。</li> </ul>	
達成目標	自律的な行動を通して自己肯定感を獲得する生徒の増加 各課程の様々な教育活動の場面や学園祭等の学校行事において、自律的な行動が意識的に行われ、生徒が成功体験を通して自己肯定感をより高めること	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼間単位制では、生徒会が校則（生徒心得）を検討し、守るべき規範は何かを考え、その改善案を教職員と協議し、協議した内容を生徒と共有する中で意識を高める。</li> <li>夜間単位制では、生徒会や各種委員会、学校行事などの特別活動を活性化させる中で、生徒の自己肯定感を涵養するとともに、TPOに応じた服装を主体的に考えたり、ルールやマナーを身につけたりする機会を持つ。また、自己評価シートを前期・後期それぞれ1回ずつ実施し、自己肯定感の客観的評価を行い、その変容を捉え、生徒理解の一助とする。</li> <li>通信制ではスクーリング登校時に、学校行事やホームルームに参加することで、社会性を身につけ、多様な価値観を学び、自ら学習する態度を培う。</li> <li>全ての課程の生徒が一同にそろう学園祭では、ルールやマナーを意識しながら行事を楽しむことができるように呼びかける。</li> <li>生徒の学校生活における変容を把握するために、引き続きアンケートを実施する。</li> <li>昨年度の反省を踏まえ、守れなかったルールやマナーの主なものを選び、電子掲示板等でマナーアップを呼びかける。</li> </ul>	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学園祭等の学校行事において、生徒実行委員会を中心に計画的に準備し、各企画が成功するよう協力して取り組んでいた。</li> <li>問題行動の発生を抑止できた。</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼間単位制では、夏服（ポロシャツ）の変更について、生徒会が昨年度1月から夏服検討委員会で協議を重ね、今年度5月に新しい夏服のデザインを決定した。</li> <li>夜間単位制では、生徒会を中心に生徒からのアンケートをもとに、9月に校外でのBBQを企画し準備していたが、猛暑のため命の危険があったため、ボウリングに変更した。</li> <li>問題行動の抑止に向け、継続した指導を行うとともに、警察等の外部機関とも連携して対処した。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活がよりよいものになるよう、生徒会を中心に主体的に考え、行動する生徒が多く見受けられた。</li> <li>前期は問題行動が数件発生したが、後期は落ち着いて学習できる環境となった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>『生徒指導提要』が改訂されて3年がたち、教員はその内容を理解し、指導していることと思う。それに加え、今後は厚生労働省の『ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～』を参考にして、生徒が「自立」の意味を理解し、実現できるよう、支援してほしい。</li> <li>生徒が規則正しい生活を送るための指導や、短時間でも達成感を得られる活動を取り入れるなど、生徒の成長のために支援してほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>SCやSSW、特別支援コーディネーター、養護教諭と生徒指導部が連携し、課題未然防止はもとより、生徒の自立に向けてどのような取り組みができるかを検討する。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活 【その2】	
重点課題	心身の健康	
現 状	<p>本校には、不登校経験がある生徒、特別な支援を要する生徒、悩みを抱える生徒など、多様な生徒が在籍している。</p> <p>多様な生徒の理解として、定時制（昼間・夜間単位制）では、生徒および保護者へプロフィールカードの記入を依頼し、前期と後期に各1回生徒情報交換会を行っている。</p> <p>通信制では、前期と後期に各1回生徒理解委員会を実施し、配慮が必要な生徒の情報共有や新旧担任や教科担当からの情報提供を行っている。また、学校生活アンケート実施により、生徒の実態把握と困り感の把握に努め、適切な支援につながるよう努めている。</p> <p>生徒の心理的安定を図るため、プロフィールカードを活用した面接や学校生活アンケートを基に支援を要する生徒との面談を実施し、適切な支援につなげるとともに、生徒自身にも誰かに相談する姿勢を身につけさせていく必要がある。</p>	
達成目標	① 教員向けの研修会の実施	② S Cによる生徒向けの講演会
	年2回	年2回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を要する生徒の対応について、教員間で共通理解を図る。</li> <li>・生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に教員間で協力して取り組む。</li> <li>・プロフィールカードの作成や学校生活アンケートの実施を通して、生徒の実態把握と困り感の把握に努め、適切な支援につなげる。</li> <li>・カウンセラーによる生徒向けの講演会を実施する。</li> <li>・教育相談日より「道程」で心の健康を保つための知識と理解を深める。</li> </ul>	
達 成 度	<p>① 教員向けの研修会の実施 4回（全教員対象3回、夜間単位制教員対象1回）</p> <p>② スクールカウンセラーによる生徒向けの講演会の実施 3回（昼間単位制1年次対象1回、通信制全生徒対象2回）</p>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月と1月に特別支援教育研修会を実施し、特別な支援を要する生徒の特性と具体的な支援について学んだ。</li> <li>・6月にスクールカウンセラーによる全職員対象のカウンセリング研修会と夜間単位制教員対象の研修会を実施し、生徒と関わる際のポイントについて学んだ。</li> <li>・昼間単位制1年次、通信制の全生徒対象のスクールカウンセラーによる講演会を実施した。（昼間単位制ではストレスマネジメント研修会「心と身体の健康について」Zoomでの講演、通信制ではメンタルヘルズ講座「ストレスとの上手な付き合い方」について2回行い、2回目は1回目の講演の録画を視聴）</li> <li>・定時制（昼間・夜間単位制）では、生徒情報交換会、通信制では、生徒理解委員会を通して、支援を要する生徒の対応について、教員間で共通理解を図った。</li> <li>・生徒の悩みや問題行動について、関係教員間で協力して取り組み、中にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに相談し、支援につなげた例もあった。</li> <li>・心の健康を保つための知識と理解を深めるよう、教育相談日より「道程」を年に7回発行した。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーによる生徒向けの講演会を実施し、心の健康を保つための知識と理解を深めることができた。</li> <li>・不登校経験がある生徒、特別な支援を要する生徒、悩みを抱える生徒など、多様な生徒が在籍しており、教員の学びを高めるために研修会の継続が望ましい。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちの心の安定、生徒たちが安心できる居場所づくりは大切であり、スクールカウンセラーとの連携が必要である。</li> <li>・1年に1回、精神科医に生徒の事例を伝え、回答していただくといった先生方の研修会も取り入れてもよいのではないかと感じた。</li> <li>・誰でもどんな人にも必ず長所がある。それを見つけて生徒を褒めてあげてほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みや不安を抱えている生徒が多いため、スクールカウンセラーによる生徒対象の講演会を計画し、実施する。</li> <li>・多様な生徒に対して、きめ細やかな対応ができるように全教員対象の研修会を計画し、実施する。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	進路支援
重点課題	進路実現をめざす支援活動
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意識が卒業することにだけ向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。</li> <li>・進路決定に必要な知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。</li> <li>・進路志望に毎年ばらつきがあり、年間の一斉の進路指導が行いにくい。</li> <li>・昨年度の達成度（3課程平均 90.8%・専攻科 90.0%）は、達成目標を下回っている。</li> </ul>
達成目標	年度末での進路先決定率 ※就職に関しては志望が明確で就職活動を行う生徒を対象とし、進学に関しては第一志望に限定しない。 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査などを通して早いうちから卒業後の進路について考えることにより、受講登録など学習計画に反映させ、進路実現を行えるよう支援する。</li> <li>・進路について考えさせる機会を工夫し、進路意識の向上を図る。</li> <li>・オープンキャンパスや応募前職場見学などに積極的に取り組ませ、進路意識を高める。</li> </ul>
達 成 度	年度末での進路決定率（令和8年3月16日現在） 3課程平均：86.6%（昼間：95.0%、夜間：69.2%、通信：78.1%） 専攻科：88.9%
具体的な取組状況	○進路について考えさせる機会を増やすため、卒業年次（3・4年次）と2年次に講義や体験の機会を増やした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業年次生を対象に進路説明会（模擬授業を含む）を6月19日に実施した。</li> <li>・2年次生を対象に介護職の魅力を伝える進路講演会を8月29日に実施した。</li> <li>・2年次生を対象に進学説明会を11月18日に実施した。</li> <li>・2年次生を対象に卒業生の助言を聞く進路講演会を2月13日に実施した。</li> </ul>
評 価	C <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学については一般選抜まで粘り強く取り組む生徒がおり、個別支援を継続している。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に目を向ける仕掛けづくりを工夫してほしい。</li> <li>・どんなことをやりたいか、どんな人になりたいか夢に向かって進路を考えてほしい。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じた個別指導の工夫改善が必要である。</li> <li>・進路情報の提供方法の工夫が必要である。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	特別活動	
重点課題	生徒が主体となる自主的な特別活動の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。</li> <li>・生徒の中には集団活動が苦手な者もあり、学校行事への参加に必ずしも積極的でない傾向がみられる。そのため参加形態や内容の工夫が必要である。</li> <li>・日程や校時の相違から、各課程間の交流の機会が極めて少ない。</li> </ul>	
達成目標	①学園祭に参加した生徒の満足度	②生徒の主体的な地域交流、ボランティア活動を実施
	90%以上	年6回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭では4課程合同の展示やステージ発表を企画、運営し、県民カレッジおよび、各課程間の相互理解を深めるとともに、多くの生徒が意欲的に取り組むことができるように内容を考慮する。また、学園祭の事後にアンケートをとり、生徒の満足度や問題点を分析する。</li> <li>・生徒会執行委員会と各種委員会との連携を深め、生徒会活動をより活性化させ、生徒の自らの判断する力を育てる。</li> <li>・地域との交流活動等、校外での自主的活動の機会を積極的に増やし、協働・共生していく姿勢を育てる。</li> </ul>	
達 成 度	① 92.0%	② 8回実施
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4課程から生徒学園祭実行委員会を組織し、生徒主体でテーマ・ポスターの募集や、共同企画として「みんなでつくるスタンドグラス・メッセージボード」を行った。また、学園祭後に生徒アンケートを実施した。</li> <li>② 地域交流活動として、愛宕地区の「春のフェスティバル in あたご」（5月）、「ふれあい朝市」（10月）に参加した。また、環境整備活動として、「花街道プロジェクト」に参加し、県庁前公園花壇（6月）、城址公園前花壇（6、9、11月）、くれはな畑（9、11月）の整備を行い、活動回数のはべ8回であった。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学園祭に関する意識調査によれば、「学園祭に参加して満足したか」の設問に、「強く思う」44.6%（前年度37.9%）、「思う」47.4%（前年度54.0%）となり、達成度は前年同様だが、「強く思う」が6.7ポイント上昇した。</li> <li>② 目標値を達成するとともに、今年度は生徒会執行委員会だけでなく、多くの生徒有志が主体的に参加した。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課程の壁を越えた学園祭での協働活動や、環境整備活動等の地域活動を通して、生徒たちの満足度が高い点が印象的であった。</li> <li>・地域活動では、生徒が準備や片付けを積極的に行っており、地域として大変うれしい。今後も地域交流活動や「薬都とやま」の発展に貢献するくれはな畑の植栽活動など、地域に定着した活動を継続してほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学園祭に関する意識調査の、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学園祭に積極的に参加できた」⇒「強く思う」47.4%、「思う」41.4%</li> <li>・「他の生徒と協力できた」⇒「強く思う」48.2%、「思う」40.2%</li> </ul>                     という結果から、生徒がそれぞれのクラスで主体的、協働的に活動した様子が窺える。今後も生徒が主体的に参加できるように工夫を凝らしたい。また、所属クラスを越えて楽しめる企画や他課程との合同企画を推進するなど、クラス、学年、課程を越えて協働できる行事となるように留意したい。                 </li> <li>② 環境整備活動については、生徒、教職員とも無理なく持続的に活動するために、活動内容を精査するとともに、より生徒主体の活動となるよう計画的に取り組みたい。また、今年度初めて中央農業高校と連携した植栽活動を行ったり、本校ホームページにボランティア活動の様子を掲載したりした。今後も継続したい。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)